

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 復興支援 - 04

学校名・団体名	久慈市立山形小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	地域に学び、地域に開く復興教育

<活動・研究の意義および活動報告>

久慈市は、2011年東日本大震災、さらに2016年8月の台風10号の2つの災害により、沿岸部だけでなく山間部でも大きな被害を受けた。本校の位置する山形地区は山間部にあり、台風10号による土砂崩れや河川沿いの県道の崩壊により一時、孤立する民家も出た。

本校のこれまでの防災教育は、災害から身を守る対処行動の学習が中心であった。昨年度から、主体的に判断する力を養う防災教育に力を入れることにし、事前指導と事後指導に力を入れた避難訓練や予告なしの避難訓練、さらに、高学年には「東日本大震災から学ぶ」と題した防災授業を実施してきた。今年度から、岩手県全体で取り組んでいる復興教育の充実に力を入れ、地域の実態に応じた内容を地域の方や保護者から学ぶ防災教育を進めていくことにした。防災知識や防災行動の学習を通し、防災意識の向上ならびに主体的に判断する力を養うことを目指す。

<活動報告>

1 親子防災教室「身近なもので作る防災グッズ～新聞紙スリッパとペーパーマスク作り～」



- (1) 期日 2018年6月29日（金） <参加：全校児童と保護者>
- (2) 内容 親子で学ぶ防災教育として、身近にあるものを材料にして防災に役立つもの（新聞紙スリッパとキッチンペーパーで作るマスク）を作成した。
- (3) 成果 感想から防災についての関心の高まりや自分の家の防災について考えるきっかけになったことがわかった。親子で一緒に活動したことで、児童だけでなく保護者の防災への関心と防災意識の向上につなげることができた。

2 防災キャンプ

(1) 期日 2018年7月28日(土)29日(日) <参加:4年生以上>

(2) 内容 学校が避難所になったときのいろいろな対応の仕方(防災行動)とこれまでに起きた災害(台風10号と東日本大震災)の話から自助と共助について学んだ。

<具体的な内容>

- ① 「避難所について考えよう」(必要なもの、ルール)
- ② 野外炊事(ポリ袋炊飯とかまど作り)
- ③ 座談会「台風10号と山形町」(地域の方3名が話題提供)
- ④ 非常食(保存食)体験
- ⑤ 被災地(陸前高田市)で活動している支援団体(NPO法人)の方の話



「避難所について学ぼう」



ポリ袋炊飯体験



座談会「台風10号と山形町」



体育館で就寝



非常食体験



NPO 法人の方のお話

(3) 成果 具体的な防災行動と防災知識を学ぶ機会になり、充実した2日間だった。子どもたちは、自助と共助の大切さだけでなく語り継ぎの大切さも学ぶことができた。

3 気象防災ワークショップ「台風・大雨情報の活用法を学ぼう」

(1) 期日 2019年2月6日(水) <参加:4年生以上>

(2) 内容 台風や大雨による実際の災害を学んだ後、盛岡気象台が発表した気象情報と久慈市洪水・土砂災害ハザードマップをもとに、具体的な防災行動をグループで考え交流し合った。

(3) 成果 具体的な情報をもとに事前の避難行動を考えることができた。グループで考えたことを交流し合えたことで考えが広がり学び合えた。

【今回の防災教育を振り返って】

・活動を通して学ぶ防災教育を実施したことで、児童は意欲的に防災について学ぶことができた。特に、今回の3つの体験学習から「自助と共助」の意識を高めることができた。また、保護者の関心も高まっており地域全体で取り組む防災教育の足掛かりになったと感じる。今後も地域を意識した防災教育、並びに復興教育に力を入れ主体的な判断と行動のできる児童の育成に努めたい。

